会長新春あいさつ

読者のみなさま、新年あけましておめでとうございます。

昨年の日本のうたごえ祭典は年2回、1月には東京を主に『70周年記念日本のうたごえ祭典』が、11月末には京都のうたごえ20周年を記念して『日本のうたごえ祭典・京都』が開催されました。共に祭典3日間で前者はのべ2万人、後者は1万6500人が集い、心ひとつにうたごえを響かせ大成功をおさめることができました。祭典を物心両面で支えていただいた地元・全国の皆様方にあらためておれ申し上げます。

▲田中熙治 日本のうたごえ全国協議会会長

（大軍拡と9条改憲を許さない）

安倍首相は12月9日の臨時国会閉会後の記者会見で「（改憲を）必ずや私の手で成し遂げたい」と強弁し、改憲への強い執念を露わにしました。

自民党は衆参両院の憲法審査会での改憲4項目提示も狙っていましたが、臨時国会は「桜」疑惑その思惑も打ち砕かれてしまいました。いま議論すべきはこの「桜」疑惑であり、その中身は、「税金の私物化」「前夜祭会費問題」「名簿廃棄・隠ぺい」「反社」等々とまさに嘘とごまかしの花が満開です。作家松井某次郎氏の「『税の壁』の下には死体が埋まっている」流に言えば、安倍首相主催の宴は「『税の壁』の下には死体（じたい）放題が埋まっている」であり、安倍政権そのものが死に体も同然です。

政府は、2020年度当初予算案の軍事費について、8年連続の増額で5・3%増規模とする過去最大の大軍拡を企てています。

被爆75年から2023年 運動75周年にむけて

佐世保の海陸隊員、F35B戦闘機部隊、米原子力空母等々の配備は、米国を除けば世界で日本以外に例がなく、主権侵害の異常事態がまかり通っています。このF35戦闘機1機が約116億円といわれ、それだけで4千人分の保育所や900人分の特別養護老人ホームの建設が可能です。

安倍首相が沖縄県民の心に寄り添うと言いながら、沖縄県民の尊重なる民意を無視して辺野古新基地の工事を強行することは、憲法と地方自治の蹂躙です。このような中、自治体の首長とその経験者による『全国首長九条の会』が131人の現・元首長のよびかけで11月に結成され、全国にある7千を超える九条の会とも連携するという動きが出てきています。私たちも「安倍9条改憲NO・全国うたごえアクション」のもと、憲法を生かす3000万人署名で「戦争する国」づくりを許さない運動を広げましょう。

（世界の流れに逆行する日本）

いま安倍政権のもと日本政府が世界の流れに逆行する姿勢が浮き彫りになっています。その顕著な一例、一つは『核兵器禁止条約』に対する態度です。署名も批准もしなければ一切見ぬ振りで無視しているばかりでなく、被爆国を名乗りながら核保有国に買入れし、核兵器廃絶に背を向け効者の役割を果たしています。

昨年、来日したフランシスコ・ローマ教皇は、長崎、広島両市で核兵器禁止条約を支持し、核兵器の使用だけでなく、「核抑止」も厳しく批判しましたが、菅官房長官は「米国の核抑止力を維持・強化が現実的」と教皇の主張を全面否定。ローマ教皇はさらに、高まる軍拡競争も批判。最新鋭機を爆買いする安倍政権に対する痛烈な批判を暗示しました。

いま一つは、昨年暮れに開かれた国連気候変動枠組み条約第25回締結国会議（COP25）でとった日本の態度です。世界で5番目に多い温室効果ガス排出国である日本が石炭火力発電の廃止も温室効果ガスの排出削減目標の引き上げ表明もしないどころか、さらに国内や他国への新増設を推進すると言明。その結果、温暖化対策に後ろ向きの国に贈られる「化石賞」を会議期間中2回も受賞する羽目に。しかも小泉環境相は、この不名誉な化石賞の受賞について「私が演説で発信した効果だと思った」と全く意味不明な発言で、「地球の危機」に対する日本政府の無責任な態度を世界に示したのです。

（うたごえ発被爆75年運動）

本年は被爆75年の年です。この節目の年に次の三つの重点活動に全力を挙げます。

①今秋広島で開催される「被爆2020年日本のうたごえ祭典inひろしま～被爆75年　ひかりにむかって～」を地元・全国の力で大成功させること。

②被爆75年記念作品として、6人のうたごえ作曲家に委嘱し、近々出版されるオムニバス創作曲集をひろしま発典はじめ、全国各地で歌い広げていくこと（2023年、運動75周年記念として池宜一郎氏はじめ6人の専門作曲家によるオムニバス作品を委嘱、22年春までには楽譜出版予定）。

③月に開催される2020年NPT再検討会議&ニューヨークで開かれる原水爆禁止世界大会をはじめとする国際共同行動に参加するうたごえ代表団の派遣に。しかも小泉環境相は、この不名誉な化石賞の受賞について「私が演説で発信した効果だと思った」と全く意味不明な発言で、「地球の危機」に対する日本政府の無責任な態度を世界に示したのです。

▲2010年 NPT・NY行動

うたごえは被爆75年から2023年運動75周年にむけて歩み出しました。いま、文化運動、わけてもうたごえ運動にとって必要なのは長期計画（ビジョン）であり、その策定のキーワードは「知性・感性・理性」です。加えて「加盟組織とうたごえ新聞の読者拡大をあらゆる機会と場を通じて実践していくことが、運動の根幹を成すものとして推し進めていくことが求められています。

今年も一年希望を胸に大いに歌い交わそうではありませんか。

2020年日本のうたごえ祭典inひろしま

～被爆75年　ひかりにむかって～

11月21日(土)～23日(月・祝) 22日　大音楽会・大うたう会(グリーンアリーナ)
21日特別音楽会　21,23日　全国合唱発表会、他

被爆者と共に、子ども1000人の合唱オーケストラと大合唱他

▲2020年被爆75年 日本のうたごえ祭典 in ひろしまロゴマーク

高田　新年明けましておめでとうございます。新年、読者のみなさんに広島から2020年日本のうたごえ祭典inひろしまへの想いを届けます。

広島での日本のうたごえ祭典は、1995年、2005年につづいて今回が3回目。1995年の1回目は、開催を決めるのにかなり時間がかかり、最後は運営委員長熊谷勇二さんの決意「退職後の生活をかけてやる」と、もう一つは音楽センターひろしまの専任で亡くなった中島雅美さんの「広島で日本のうたごえ祭典をしたい」を叶えようと。被爆50年原水爆禁止世界大会前日8月5日にサンプラザホールで大音楽会だけの開催（秋に合唱発表会開催）。あの祭典でも今も歌いつがれている山ノ木竹志（広島合唱団新江義雄）日本語訳ア メイジング・グレイス」が誕生した。

▲寺本美和子運営委員長

次の2005年、被爆60年の年は前年5月に実は開催の方向だった長崎が難しくなり、広島合唱団運営委員会に開催提案すると、みんな「やるしかないだろう」と。グリーンアリーナでの大音楽会、特別音楽会もやりました。1995年以降、僕も新江さんも日本のうたごえ祭典の企画に関わり、下地もありました。2005年祭典の大きな財産はサークルがたくさん生まれたこと。今回は次代に運営委員長をスイッチしての祭典です。では、それぞれの祭典への想い、寺本運営委員長から順に。

▲山崎成美 事業委員長

▲山岡靖子 事務局次長

被爆75年　何かしたい！　祭典だ！

寺本　過去2回、運営委員長をされた熊谷さんは、1995年の時は奥さんの恵美子さんと「共闘」したら家を売るかもしれん」（笑）と悲愴な決意をされたということですが、それに比べ私はずいぶん安易に引き受けたなあと。でもそれは一人でやるのではない、このの制約われた協議会の組織とと広島合唱団団長寺本さんに運営委員長をスイッチしての祭典です。では、それぞれの祭典への想い、寺本運営委員長から順に。

被爆75年　何かしたい！　祭典だ！

寺本　過去2回、運営委員長をされた熊谷さんは、1995年の時は奥さんの恵美子さんと「共闘」したら家を売るかもしれん」（笑）と悲愴な決意をされたということですが、それに比べ私はずいぶん安易に引き受けたなあと。でもそれは一人でやるのではない、このの制約われた協議会の組織たちへの信頼があるから。

私は被爆75年の年に何か、うたごえを通して被爆者の方々と核兵器禁止条約を大きく進めるような取り組みができないかと思っていたんです。そんな時、日本のうたごえ全国協議会田中会長らが広島に来られて、「被爆75年日本のうたごえ祭典を」と話され、その時、「あっ、そういうのあり!?」、腑ってもないチャンスを作ってもらったと正直に思いました。

祭典運動を通して若い人、うたごえの裾野をもっと広げたい、たくさんの人にうたごえの良さを知ってもらいたい、関わってもらいたいというのが私の想いです。

▲揃いの赤いスタッフジャンパーを着て広島のうたごえメンバー 2019年祭典・京都から引きつぎ

打ち上げのおいしいお酒を楽しみに

三宅　事務局長の三宅です。この話が来た時、実はすごい不安でした。何をどうすればいいんだろうと。だけど、やろうとなって。事務局長は私よりうまく進めてくれる人はおるんじゃろうけどやってもいいよ、と言いました。その根拠の一つは（協議会を支えてきた）山岡さんの支えがあるから、教えてもらいながらやってみようと、不安はあるけど決意しました。

祭典で一つは被爆をテーマに、そして、サークルを2005年の時のようにつくれたらいいなと思っています。

▲三宅徳子 事務局長

帰ってきたウルトラマン

鎌田　財政担当です。68歳。20代の頃、広島合唱団（元団長）にいましたが、仕事でずっと東京でした。戻って、うたごえが懐かしく2年前、サークルドンマイに入りました。寺本さんから「力貸して」と声をかけられて事情もわからないけれど引き受けました。

日本のうたごえ祭典は東京にいる時、参加して感動しました。「青い空は」の会場中の大合唱、すごい、楽しい、力をもらえたと思いました。それもあって今回、財政ならと。竹内さんから祭典決算データを見せてもらいなるほど、この数字は読めるので頭に浮かぶことはいっぱいあります。絶対赤字を出さないよう、収支をいかにコントロールしていくか、データから情報を出していこうと思います。

▲植木俊郎 宣伝委員長

▲鎌田慶一 財政委員長

一同　頼もしい。

山岡　本当に帰ってきたウルトラマンだ。

前回から15年、広島の積み上げの上に

山岡　1995年は「アメイジング・グレイス」、2005年は「おがい」が大団円でしたね。両祭典はみんなを集める、チケットを広げる、電話かけで終わった気がします。でもこの6・7年広島のうたごえ協議会はサークルも増えて、協議会のメンバーが自家発電のように動いている。前回からこの15年の積み上げが大きく、その上に今回、ぜひ大きな花を咲かせ、一緒に喜ぼうとやっていきたいと思います。

▲広島原爆資料館前の「嵐の中の母子像」

被爆者が光り輝く祭典

高田　では、企画のコンセプトを。会場もグリーンアリーナが確保できて腰が据わり、どんな祭典にしたいかそれぞれの思いが寄せられ、「致したのは「被爆者が光り輝く祭典」に。テーマも「ひかりにむかって」。サーロー節子さんのことはです。被爆者の人たちがこの世に生きてきて良かった、歌い続けて良かったという想いを全員で共有するシーンをつくりたい。

植木　私が委員を引き受けたのもそこです。義母も94歳になります。体験を聞くたびに涙が出る。そんな想いを持って生きてきた人たちに、ぜひ祭典を見せてあげたいし、歌ってほしい。

高田　真のうたごえサークルの松本秀子さんは原爆で家族を失い、ずっと被爆のことを語りたくなかった。その松本さんがうたごえと出会い、今は歌が生きがいになっている。松本さんも、サーロー節子さんに「（祭典に）来てください」と手紙を渡しています。

被爆者と子どもたちその間をつなぐ青年

高田　オープニングは和太鼓「いのちの詩」。今福優さんの教える太鼓チームとブラスバンドと合唱300人で。そして子どもたち1000人の合唱。パトンを次の世代に渡すシチュエーションを。曲の案は平和公園に流れていて、広島では教科書に載っている「アメイジング・グレイス」。アリーナが挟く見えるような合唱団を。全国のみなさん、一緒に成功させましょう。

一同　よろしくお願いします。

太田真季　CDブック　わたしは今日も歌う　新発売
太田真季の「うたと人生」が凝縮された1冊。

DISC 1
人生よありがとう※／マニュフェスト※／月光のワルツ／なつかしきヴォルガ／つばめ／キエフの鳥の歌／うぐいす／鳥の歌／アイルランドの子守歌／風仙花／ある古い歌の伝説／百万本のバラ／牛車に揺られて／みんな一緒に／哀しみのソレアード　全15曲

DISC 2
Now Is The Time／風花／ベルリンの雪／鳥のように／かわらないで心の中に／花をおくろう／星よお前は／母なる故郷／ふるさと／ Peace Wave／地球を歩きたい／芦別の雪の中を／あの空へ帰ろう※／ひとつの歌から／さよならのかわりに　全15曲

※…新録音

ブックレット（上製本160頁）
Ⅰ．函館から東京へ
Ⅱ．ソロ歌手としての旅立ち
Ⅲ．思いを伝えて
Ⅳ．〈寄稿〉真季さんと私
守屋博さん／北爪陸夫さん
田所　馨さん

本体価格3,273円+税
商品番号 CDK059

株式会社 音楽センター／〒169-0072 東京都新宿区大久保2-16-36 TEL:03(3200)0101／FAX:03(3200)0104 https://www.ongakucenter.co.jp/ E-mail:info@ongakucenter.co.jp